

## 韓国の小学校では英語の授業がどう展開されているのか？

— 担任主導の英語教育 —

杉浦 正好 (愛知教育大学外国語教育講座)  
(2005年10月28日受理)

### Teaching English at the Primary School Level in South Korea

Masayoshi SUGIURA (Department of Foreign Languages, Aichi University of Education)

**要約** 2002年度から日本の多くの小学校で英語が何らかの形で教えられている。そのほとんどは「総合的な学習の時間」の国際理解の枠内で教えられているが、そのあり方について問題点も指摘されている。様々な論議がある中、小学校英語教育の今後の方向性について本格的に検討される時期が来ていると言えよう。一方、1997年に開始された韓国の小学校での英語教育は第二段階に入っている。時間数や形態を含めて、先駆者ともいべき韓国から学ぶことは多いと思われる。本稿では、韓国の1小学校における英語授業のビデオを分析した。2人のクラス担任の教員が同じ教材を用いて別クラスで実施しており、教師用指導書との関係も浮き彫りになった。この分析を通して、クラス担任が教科として英語を教える場合の示唆を得ることができる。

**Keywords** : 小学校英語, 韓国, クラス担任, 授業分析

#### 1. はじめに

日本の英語教育界が大きく揺れている。小学校で本格的に英語教育を実施すべきか否かで意見が二分されているのである。現行の学習指導要領によれば、「総合的な学習の時間」内の国際理解教育の一環として英語会話などを指導できることになっている。さらに踏み込んで、英語を小学校で必修にするか否かが中央教育審議会外国語専門部会で論議されている。教科としての位置付けも多様である。必修化までに留め、教科書については特に作成しないという案もある。あるいは、「英語力向上よりも小学生の成長」を目指すのが望ましいという意見もある(松川 2004)。その結論は2005年12月末の時点でもまだ不透明である。

平成17年度の文部科学省意識調査によれば、保護者の70.7%が小学校英語の必修化に賛成している(読売新聞 2005)。地域や保護者の要望が強いこともあり、英語の指導はかなり浸透しつつあると言ってよいだろう。平成16年度の「小学校英語活動実施状況調査」によれば、92.1%の小学校で「英語活動」を何らかの形態で実施されている(文部科学省 2005)。同調査によれば、そのほとんどは「総合的な学習の時間」内の国際理解教育の枠内で英語が教えられている。

外国語学習環境が最も日本に近い韓国では、1997年から小学校英語指導を教科として導入している。当初はかなりの混乱も予想されたが、比較的スムーズに実施され、2001年より第二段階に入っている。小学3年生で英語を学び始めた最初の学年は、2004年に高校1

年生になり、成果が注目されている。ベネッセコーポレーションの調査(2004年実施)によれば、この韓国の高校1年生は、日本の同学年の生徒に比べて、大幅に英語力がアップしているという結果を発表している(渡辺2005)。徹底的な教員研修が成功の原因の一つに挙げられているが、授業が実際にどのように展開されているかがそれ以上に大きなウェイトを占めていると思われる。本稿では、公立小学校の授業を観察し、韓国の英語教育の一端を探りたい。

本研究の分析対象は韓国の小学校の授業ビデオである。これは大韓民国慶尚南道の北西部に位置するハミョン郡にあるハミョン初等学校で、2002年6月上旬に撮影されたものである。これは愛知教育大学留学中の同校教諭の文氏から提供されたビデオで、同氏の協力を得て授業ビデオの分析を2004年12月に行った。なお、分析の際には、韓国晋州市の晋州教育大学校附設小学校及び晋州市の公立小学校の授業見学を背景知識として利用している。晋州教育大学校は愛知教育大学と交流協定を締結しており、2004年に11月に訪問し、英語教育担当者(Jung-Sook Kim 助教授)から聞き取り調査を実施している。

#### 2. 韓国英語教育の現況

韓国の公立小学校で英語教育が導入されたのは1997年である。小学校3年から40分授業を週2時間で開始され、学年進行の結果、2000年に6年生まで行われるようになった。この4年間を総括して、新たに本格的

に開始されたのが2001年である。それまで週2時間であったのが、3年生と4年生は週1時間に削減された。この理由について晋州教育大学校の助教授 Jung-Sook Kim 氏は、「他の教科に授業時間の配当を譲らざるを得なかった」としているが、実情は多くの小学校で裁量時間を設けて週2時間体制を確保しているそうである。プラス1時間の授業は地域で作成した教科書を使用している。なお、韓国では土曜日も現在は授業を行っているが、見直しを進めている。

小学校の英語教科書は、1997年～2000年までは民間発行の韓国文部省認定16種類があったが、現在は国定教科書1種類である。1種類に絞ることに異論はあったが、教材作成や補助教材に予算投入の効率を優先するためとのことであった（Jung-Sook Kim 助教授談）。なお、第8次教育課程では、英語は国定ではなく検定教科書になる予定である。クラスの人数は約40名で日本と大差はない。教室内の配置も日本とよく似ている。異なるのは、教室の教壇の上方に韓国の国旗があるのと、大型液晶テレビがどの教室にもあり、教卓から遠隔操作が可能である。

韓国の小学校では、1998年度ではクラス担任（約60%）と英語専任教員（約40%）が英語を担当していたが（河合 2004）、現在はクラス担任が主となっている。英語授業担当者であるクラス担任は、政府主導で120時間の研修が義務付けられている。生徒をよく理解しているクラス担任の方が適していることが大きな理由である（Jung-Sook Kim 助教授談）。なお、晋州教育大学校附設小学校ではカナダ人のALTが中心に英語授業を担当していたが、他の公立小学校では外国人教師（ALT）はほとんどいない。

### 3. 教科書の構成

国定教科書 *Elementary School English* は韓国教育課程・評価機構が編集し、教師には指導書とCD-ROMが付与されている。各学年の教科書の構成は下記の通りである。3年生と4年生の教科書は各 lesson とも10ページ、5年生と6年生は8ページから構成されている。シラバスは機能（function）を中心に据え、文法項目を絡めている。以下の Lesson のタイトルに見られるように、トピックも組み込まれている。

次は、教科書の Lesson のタイトルを学年別に一覧にしたものである。

#### 3年生

Lesson	タイトル
1	Hello, I'm <i>Minsu</i>
2	What's This?
3	Happy Birthday!
4	Wash Your Hands

5	I like Apples
6	How Many Cows?
7	I Can Swim
8	It's Snowing

挨拶を手始めに、子どもの日常生活に密着したトピックを扱っている。晋州教育大学校附設小学校で参観した授業は Lesson 6 “I Can Swim” であった。同じ日に訪問した晋州市の公立小学校の3年生もまったく同じ進度であった。

#### 4年生

Lesson	タイトル
1	Nice to Meet You
2	Don't Do That
3	How Old Are You?
4	What Time Is It?
5	Who Is She?
6	Is This Your Cap?
7	Sorry, I Can't
8	How Much Is It?

晋州教育大学校附設小学校で参観した授業は Lesson 7 “Sorry, I Can't” であった。4年生も Lesson 7 の授業をしており、授業進度はどの学年であろうと、厳格に守られていることが分かる。

#### 5年生

Lesson	タイトル
1	How Are You?
2	What Day Is It Today?
3	It's Under the Table
4	What a Nice Day!
5	Where Is <i>Namdaemun</i> ?
6	I Get Up at Seven Every Day
7	She's Tall
8	Let's Go Swimming
9	Whose Boat Is This?
10	Do You Want Some More?
11	What Are You Doing?
12	This Is a Bedroom
13	What Did You Do Yesterday?
14	Is Peter There?
15	Can You Join Us?
16	Did You Have a Nice Vacation?

ビデオ撮影されているハミョン初等学校の授業は、6月に実施され、Lesson 7 “She's Tall” を扱っている。

5年生の Lesson 13 で過去形が初めて登場する。機能中心のシラバスではあるが、「最も使用頻度が高い10の英語の動詞はすべて不規則動詞の過去形である」

(Kirby & Christiansen, 2003:289) から判断すれば、日常生活の必要性よりも、文法配列を重視していると考えられる。

#### 6年生

Lesson	タイトル
1	Where Are You From?
2	Is This Your Street?
3	I Like Spring
4	When Is Your Birthday?
5	May I Help You?
6	Can I Have Some Water?
7	My Father Is a Pilot
8	What Will You Do This Summer?
9	How Was Your Vacation?
10	I'm Stronger Than You
11	What Do You Want to Do?
12	Will You Help Me, Please?
13	That's Too Bad
14	Would You Like to Come to My House?
15	It's Time to Go Home
16	So Long, Everyone!

文法構造の複雑さから判断すれば、かなり難しい表現が扱われている。中学校との連繋がどのようになっているか興味深い。

#### 4. 各Lesson の構成

各学年のLessonにおける構成は下記の通りである。枠組みはほぼ同一である。

##### 3年生

Look and Listen (1), Listen and Repeat (1), Let's Play (1), Look and Listen (2), Listen and Repeat (2), Let's Chant, Let's Play (2), Look and Speak, Let's Sing, Let's Play (3), Let's Role-play, Let's Review
--

各 lesson を 4 時間で終えるようになっている。リスニングから始まり、チャンツやロール・プレーが含まれている。第1時はLook and Listen (1)からLet's Play (1)まで、第2時はLook and Listen (2)からLet's Play (2)まで、第3時はLook and SpeakからLet's Play (3)までである。第4時はロール・プレーを含めた復習となる。

##### 4年生

Look and Listen (1), Listen and Repeat (1), Let's Play, Look and Listen (2), Listen and Repeat (2), Let's Chant, Let's Play (2), Let's Sing, <b>Let's Read</b> , Let's Play (3), Let's Role-play, Let's Review
--

3年生と同様に、各 lesson を 4 時間で終えるようになっている。4年生では、Look and Speakがなくなり、新たにLet's Readが加わっている。これに伴い、アルファベットが導入され、単語レベルのリーディング指導が始まる。

##### 5年生

Look and Listen, Listen and Repeat (1), Let's Play (1), Look and Speak, Listen and Repeat (2), Let's Sing/Chant, Let's Play (2), Let's Read, <b>Let's Write</b> , Let's Play (3), Role-play/ <b>Activity</b> , Review
---

各 lesson の時間数と構成は4年生と同じである。異なるのは、新たにLet's WriteとActivityが加わることである。5年生から単語レベルのライティングが導入されている。アルファベットのブロック体の大小文字を区別して書いたり、単語を書き写したりする。

##### 6年生

Look and Listen, Listen and Repeat (1), Let's Play (1), Look and Speak, Listen and Repeat (2), Let's Sing/Chant, Let's Play (2), Let's Read, Let's Write, Let's Play (3), Role-play/ <b>Activity</b> , Review
---

構成は5年生と同じであり、新しく加わった活動は特にない。

#### 5. 5年生のLesson 7 第2時の授業

分析対象の授業はLesson 7 “She's Tall” の授業で、4時間が配当され、本時はその第2時である。

第1時	Look and Listen, Listen and Repeat (1), Let's Play (1)
第2時 (本時)	Look and Speak, Listen and Repeat (2), Let's Sing, Let's Play (2)
第3時	Let's Read, Let's Write, Let's Play (3)
第4時	Activity, Review

教師用指導書にあるモデル指導案によれば、第1時も第2時もdialogを中心に授業が展開されている。dialogはlisteningから始まり、2分割された簡易版をrepeatするという過程になっている。その仕上げとしてLet's Playになり、学習した基本例文を使ったゲームを実施する。第2時も同じような過程で、新たにLet's Singが加わっている。

##### (1) 2人の教員 (Teacher AとTeacher B)

クラス担任である2人の先生が同じ教材 (Lesson 7 “She's Tall” の第2時) を用いて授業を行っている。2人とも女性で、年齢は20歳代の後半と思われる。指導過程の大枠はモデル指導案に基づいているが、それぞれの持ち味を出している。Teacher Aは、教室英語を交えながら、主に韓国語で授業を行っている。教室

における生徒の配置も普通である。Teacher Bは比較的英語が堪能であり、英語をかなり駆使して授業を展開している。生徒は最初から馬蹄形に配置されている。

(2) Lesson Plan

教科書には教師用指導書が完備している。モデル指導案の解説は主に韓国語で記載されているので、その和訳を示す。授業内容を検討するために、モデル指導案に示されている指導過程を区切りながら分析する。枠内はモデル指導案の内容である。それぞれの枠外でそのコメントを付記する。その後、授業におけるTeacher AとTeacher Bの指導内容と生徒の活動について解説する。

**学習目標**

1. 人物を描写する表現を聞いて理解し、話せる。
2. “She’s Tall” の歌を楽しく歌いながら、人物を描写する言葉が言える。
3. 人物完成ゲームに楽しく参加することができる。

このlessonの目標は「人物を描写する」という機能の習得である。その機能を表現するための文法項目は、She/He is \_\_\_\_\_. You/She/He have/has \_\_\_\_\_. である。この目標達成のために、歌やゲームを活用することになっている。

**準備するもの**

コンピュータ、CD-ROM、チョーク、カード

ここには記載されていないが、大型液晶テレビが各教室に常備されている。教師は教卓から、教材ソフトを操作できる。

**指導過程**

指導過程は、**WARM-UP**（ウォーム・アップ）、**DEVELOPMENT**（展開）、**CLOSING**（まとめ）の3段階で構成されている。この内で中心となるDEVELOPMENTについては内容を適宜区切りながら解説を示したい。

**WARM-UP**

1. Hello, class.  
T: Good morning, boys and girls.  
S: Good morning, Mr. (Miss / Mrs.) \_\_\_\_\_.  
T: How are you \_\_\_?  
S: Pretty good. Thank you.  
T: Is anyone absent today?  
S: No. Everyone is here.  
T: Very good.  
T: What time is it?  
S: It’s 10:50.  
T: Oh, it’s time to start this lesson. Let’s get started.

授業の導入であり、挨拶と出欠調べから始まっている。他のLessonでは上記のモデルとは異なる英語表現が提示されており、多様な表現が身に付くように配慮されている。

Teacher A:

この部分はビデオに収録されていないのでコメントを省略する。

Teacher B:

気持ちを込めて生徒と会話を交わしている。“Look outside. How is the weather today?” などのように、モデル指導案に示されている教室英語とは異なる表現を使用している。生徒の反応も良好である。

**2. Let’s review.**

T: Do you remember what we learned last time?

S: Yes.

写真を一枚提示しながら、人物の特徴を描写する。教師が間違えて描写した部分を生徒たちが ‘Stop’ と叫び、教師の文章を修正するようにさせる。

Look at this picture and listen to me. I’ll say some sentences about the picture. When I say something wrong about the picture, say ‘Stop’ and correct me. (長い髪の女性の写真を見せながら、身体の特徴に関する色々な文章を正しく話した後) She has short hair.

S: Stop. She has long hair.

T: Good job.

前時に学習した文型表現の復習である。写真を用いて正誤の判断をさせ、正しい答えを言わせる。教師が英語で説明できるように例があるが、示されている英語表現はかなり難解である。実際の授業ではどのように扱われているか見てみよう。

Teacher A:

先生の “Open your eyes.” の声で、生徒が目を開けると、ある人物の顔の部分が見えるように工夫してある写真がある。一部分ずつ見せながら、“What big ears! He has small eyes. He has a big mouth. Who is he? Raise your hands.” と確認しながら、生徒に有名人（サッカー選手）の名前を推測させる。正解したら、“He has small eyes. He has long hair. He has a big nose. He has a big mouth.” のように、体の部分を英語で描写する。鼻や口の大小の判断には主観があり、生徒の反応はやや鈍い。教員の表情はにこやかで生徒の雰囲気は明るい。使用している英語は少なく、単文で短く、理解しやすい。

Teacher B:

登場人物Namiの大きな人形を用い、前時に習った表現を復唱する。人形は自作で、かなりデフォルメされている。“She has a small nose.” と言ったあとで、

小さな鼻の上に、大きな鼻の絵を被せ、“Now she has a big nose.”と言う。目や髪の長さについても同様に進めている。このように、途中で体の部分を大きくしたりする工夫があり、身体の大小についての表現が容易になっている。この人形は後の活動でも使用され、生徒からの反応もよい。使用している英語は多いが、すべて単文で短く、理解されやすい。

### 3. Let's begin

T: 今回は人物完成ゲームをし、歌も習いましょう。

本時の授業目標を示す。どのような方法で、何を学習するのかを生徒に理解させる。どの程度まで知らせるかは指導書に明示されていない。

Teacher A:

授業の学習目標はすでに板書されている。本日の活動の流れをカードにして、1枚ずつ黒板に貼る。ほとんど韓国語で簡単に述べる。

Teacher B:

ほとんど英語である。“Now let's think. Let's think about today's learning points. Today's learning points. Tell me what's today's learning points.”と言いながら、韓国語で黒板に書かれた学習目標を生徒に読ませる。さらに、“And we are going to study with these orders. First, listen and speak. Listen and speak. OK? We are going to watch it on TV.”と言いながら、授業の活動について説明する。丁寧で易しい英語であるが、少し長過ぎる。

### DEVELOPMENT

#### Look and Speak

##### 1. Look at the pictures.

T: Open your book to page 58. Can you guess what they are talking about?

S: (各自の考えを発表する。)

教科書にある絵の内容を見て、内容を推測させることになっているが、2人の先生はこの活動を省略する。

##### 2. Let's listen to the dialog.

T: Let's listen to Dialog A, first.

最初にLook and Speakの対話をCD-ROMで見せる。

Dialog A

公園でジーンとピーターが対話している

Joon: Where's your sister?

Peter: She's over there.

Joon: Oh, she is tall and pretty.

Peter: Thanks.

T: Who are they?

S: Joon and Peter.

T: What are they talking about?

S: They are talking about Peter's sister.

T: How does she look?

S: She is tall and pretty.

Dialog Aを見せた後、内容理解のための質問をする。その際、正解を提示せずに、すべての生徒の意見を受け入れる。

T: Listen one more time. Check your answers.

S: (再び聞きながら、内容を確認する。)

T: Now look at Dialog B. Listen to Jinho and Nami.

Dialog BのCD-ROMを見せる。

Dialog B

2人が通り過ぎる時に、ジノの叔父の映画ポスターを見る

Jinho: Look! That's my uncle.

Nami: What?

Jinho: That's my uncle. He's a singer.

Nami: (驚きながら) Oh, he has long hair.

T: Who are they?

S: Nami and Jinho.

T: What did they see?

S: ポスターに載っているジノの叔父を見ました。

T: What does he do? Is he a doctor?

S: No. He's a singer.

T: How does he look?

S: He has long hair.

T: Excellent.

生徒たちが理解できず、正解が言えない部分は、教師が直接正解を言うより対話を再び見せて、自ら分かるよう促す。

対話はDialog Aと Dialog Bの2つに分かれている。どちらも「人物を描写する」という機能を導入しているが、文法項目は異なる。Dialog Aではbe動詞の文型 (She is tall.), Dialog Bでは、have動詞の文型 (She has long hair.) を扱っている。モデルの指導案では、英語で質問をしながら意味の確認をすることになっている。

Teacher A:

Dialog Aの部分の映像を見てから簡単な質問を英語でする。その後で自作の絵を使って、意味の確認をする。英語と韓国語を併用している。Dialog Bも同様に行う。

Teacher B:

活動は特にない。画面を見ながら、対話を聞かせるだけである。生徒が対話の内容を十分に理解しているかは定かでない。

**Listen and Repeat (2)**

**1. Listen carefully.**

T: Let's watch the screen.

ネイティブスピーカーが登場した映像を順序のとおり提示する。

- ① Joon : Where's your sister?  
Peter : She's over there.  
Joon : Oh, she is tall and pretty  
Peter : Thanks.
- ② Jinho : That's my uncle. He's a singer.  
Nami : (驚きながら) Oh, he has long hair.

**2. Listen and repeat.**

T: Now, listen and repeat the sentences line by line.

1行ずつ提示しながら、リピートさせ、不十分な部分は反復練習させる。

**3. Let's practice.**

教師は黒板に人物を描いて生徒たちは手で空中に描き、リピートしながら、教師と一緒に目標構文を練習する。

T: I'll draw my sister. Her name is Mimi.  
Let's draw her in the air following me.  
She has a big face. (黒板に顔の輪郭を大きく描きながら)

S: She has a big face. (各自空中に描いてリピートする。)

T: She has long hair. (長い髪を描きながら)

S: She has long hair. (各自空中に描いてリピートする。)

T: She has a big nose. (黒板に大きい鼻を描きながら)

S: She has a big nose. (各自空中に描いてリピートする。)

T: She has small eyes. (小さい目を2つ描きながら)

S: She has small eyes. (各自空中に描いてリピートする。)

実際に紙に人物を描いて、リピートしながら練習することもできる。

ここでの指導の流れは、「1. Listen carefully.」で映像を流す。次に「2. Listen and repeat.」でリピートさせる。最後に、「3. Let's practice.」で黒板に絵を書き、生徒に空中で描かせ、言わせる。

Teacher A :

すぐに一行ずつリピートさせる。時折リピートを中断して、韓国語でコメントを加え、意味の確認をする。「3. Let's practice.」では、「I'll tell you about the students in our class. Listen to me, and ask (answerの間違い) who it is. Raise you hands if you know the answer. OK? He is tall, and he has short hair.」と言いながら、身体の特徴を英語で述べてクラスの誰かを推測させようとする。答えられない場合は、「He has big ears.」のように追加のヒントを

出している。3人の人物を推量させているが、体の部分だけの特徴から人物を特定するには難があり、生徒に多少の戸惑いがある。身近な題材を扱うのはよいが、「She is beautiful.」 「He is handsome.」というヒントがあったが、容姿に関するコメントは一考を要する。Teacher B :

一通り聞かせてから、CDの後で2回ずつリピートさせる。発音についてコメントを加え、先生の後でリピートさせる。意味の確認は特にならない。

「3. Let's practice.」では、登場人物の絵を用いて表現の練習をさせる。「Now let's practice with picture cards. This is Peter's sister. Can you describe her?」と言って、まず人物の特徴を述べさせ、その後先生の後について文をリピートさせる。次に、「Let's check.」と言って、グループに表現できるかを確認する。「She has tall.」という答えが出るが、すぐに「She is tall.」と他の生徒が言い直す。先生は「OK. Try again. That's OK.」と言って正しい答えを繰り返させる。

**Let's Sing**

**1. Listen to the song.**

T: Let's listen to the song, first.

CD-ROMで歌を聞かせる。

T: Listen one more time clapping to the rhythm.

**2. Let's sing.**

T: Let's sing part by part.

(1行ずつリピートしながら歌い、歌になじませる。)

T: Let's sing together.

指導目標にある文法事項が歌の中に繰り返し盛り込まれている。テレビの映像と音声を用いて、英語の発音とリズムに慣れさせ、同時に文型も覚えさせるようになっている。映像は、歌のリズムに合わせて人物の手足が動くだけのアニメーションである。

Teacher A :

映像を見ながら、一度聞かせる。CDに合わせ、意味を確認しながら、1行ずつ歌わせる。次に起立をさせ、リズムに合わせて歌わせようとするが、生徒は恥ずかしがっている。着席後にコメントを加え、仕上げにもう一度歌わせる。約13分の活動である。

Teacher B :

最初にCDを聞かせる。次に、先生がキーボードを弾き、先生の後について歌わせる。次に、「Let's sing and dance.」と言ってから、起立させてCDに合わせて振りをつけて歌わせる。Teacher Aの授業の生徒よりはリズムカルである。意味の確認はなく、先生が率先して歌って踊る。約5分の活動である。

**Let's Play (2)**

人物完成ゲームをしてみましょう。

[準備するもの] チョーク、カード

[形態] グループ活動

[言語] He is handsome.

She is beautiful/pretty.

She/He is tall/short.

She/He has big/small eyes/ears/  
a mouth/a nose.

She/He has long/short hair.

She/He has nice glasses.

**1. It's time for a game.**

T: 今回は人物完成ゲームをします。

It's time to play a game. Let's play 'Finish the Features Game'.

**2. Let's play.**

教師が直接してみせ、ゲームの方法を説明する。

T: Let me show you how to play the game.  
Watch carefully.

1つのグループに行かせて、ゲーム方法を説明する。

- グループ別に一列に立つ。

T: Let's divide the class into six groups.  
Stand in lines facing the blackboard.

- 教師が一番後ろに立っている生徒に伝達する文章を耳打ちする。

T: I'll whisper a sentence to the last student in each line.

- 一番後ろの生徒は自分の席に帰って、聞いた内容を自分の前の生徒に耳打ちして伝える

T: Then, that student whispers the sentence to the student in front of him/her.

- 一番後ろの生徒は聞いた内容を黒板に絵で表現する。

T: The last student in each line must draw what he/she has heard on the blackboard.

- 絵を正確に完成させたグループが勝ち。

T: If you draw the picture correctly, you can get one point.

**(変形)**

教師が直接文章を言わず、最前列の生徒が袋からカードを取り出して、これをグループのメンバーに文章で描写して、伝達しながら活動する。伝達内容は単語や絵で与える。

伝言ゲームの一種である。これは一般的によく知られており、英語で説明しても理解され易い。ビデオに登場する2人の先生は、このゲームをあえて行わずに、独自のゲームを考えて活用している。

Teacher A :

韓国の伝統的な遊びである“Kun-kun-da Game”を行う。韓国語でルールを説明する。グループで列を作り、隣の人について、“He is tall.”のように英語で述べ、全員で動作をしながら“Kun-kun-da”と2度繰り返す。言われた人は、その隣の人について英語で描写し、同じように繰り返す。グループで練習してから、全体の前で演じさせる。“She is long hair.”という誤りがあるが訂正しない。

次に“Funny Game”をするが韓国語の説明が理解できないので省略する。最初のゲームが6分、後のゲームが5分で、合計11分の活動である。

Teacher B :

“Riddle Bus Game”を行う。説明はすべて英語で行っている。カードの山から1枚取り、“He has big eyes.”のように、そのカードの絵の説明をする。説明ができた生徒は“Dice Game”を行う。よく理解できていない生徒には、教室の一角で「2. Let's review」で用いた人形を利用して教えている。すべて終えてしまった生徒は、教室の一角に出向いて、“Computer Game”を行う。英語の説明をヘッドフォンで聞いて、着せ替え人形のように、目や鼻の種類を選んで人物を画面上で完成させる。

ゲームが終わりに近づくと、教師が“Clean-up. Clean-up”と言い出す。生徒もそれぞれ“Clean-up. Clean-up”と言いながら、後片付けをする。合計で約10分の活動である。

**CLOSING****1. Let's review today's lesson**

習った歌を再び歌いながら、学習内容を整理する。

T: Let's sing the song, 'She's Tall, again.'

S: (歌を歌う。)

**2. Good-bye, everyone.**

T: Please review the today's lesson listening to the tape or CD-ROM title at home.

T: You did a good job today. See you next class.

S: See you.

モデル指導案では、本時で扱った歌で授業を締めくくっているようにしている。

Teacher A :

“She is …?” や “She has …?” などと英語で表現しながら、先生の様子を生徒に言わせる。“She is beautiful.” という解答もあり、先生も満足そうであった。

最後に、“You did a very good job. Next time we'll learn about “Let's read and let's write”. “OK?” と言う。ワールドサッカー韓国チームにエールを送りながら授業を締めくくる。

Teacher B

“Musical Chairs”（いす取りゲーム）を行う。説明は英語で行う。この授業で習った歌を全員で音楽に合わせて歌いながら、区切りの良い点で、1人の生徒が“Tall”と言う。その言葉で、該当する生徒が椅子から立ち上がり、席を移動する。“He is short”のような表現もあり、該当する生徒が嫌がる様子が見られる。このゲームで約4分以上かかっており、騒然としたままでCLOSINGを迎える。

最後に、“We’re going to read and write next time. All right? You did a very good job today. That’s all for today, everyone. Bye-bye. See you.”と言って授業を締めくくる。

## 6. モデル指導案と2人の授業から

モデル指導案を基にして、2人の教員の授業ビデオを分析した。この分析から、次のようなことが観察できる。

- (1) 教師用指導書に示されている進捗と指導項目は忠実に守られている。
- (2) 指導過程の大枠は決まっているが、細部は教師に任されている。経験の浅い教師はモデル指導案に従い、余裕のある教師は発展的に出来る。
- (3) 教室英語を使うように奨励されているが、使わなくても授業は可能である。Teacher Aはあまり英語を使ってないが、授業運営が巧みである。Teacher Bは英語をできるだけ使用している。教師用指導書に載っている教室英語はかなり難解であり、改善の余地がある。
- (4) 歌の中に指導される文法項目が何度も繰り返されている。曲想は明るく、リズムカルであるが、内容的には意味が乏しく、映像も単調である。5年生には魅力的な歌とは思えない。
- (5) 教師は生徒をできるだけほめるように努めている。
- (6) できるだけ身近なものを題材にしている。
- (7) Let’s Playに時間を多く使っているように思えたが、実際はほぼ10分程度に抑えている。
- (8) このLessonでは“describe people”というfunctionを教え、She is tall. She has big ears. という2つの異なる文型を導入している。Dialog Aでは前者を、Dialog Bでは後者を扱っている。結果的に、is と has を混同させ、She is big ears という誤文を生み出すことになった。先生はその誤りの訂正については積極的に行っていない。

## 7. おわりに

日本における小学校英語教育の方向性が定まっていない理由として、(1) 英語を指導するのは英語専科教員とクラス担任のどちらか、(2) 「教科としての英語教育」か「国際理解教育の一環」か、という議論が未

だに決着していないことが挙げられる。後者の議論は紛糾の最中であるが、前者に関しては、生徒を把握しているクラス担任という意見が大勢を占めつつある。年配の教師からの反発も予想されるが、場合によっては他のクラス担任の援助を仰ぐことになる。

分析した授業はクラス担任による英語授業である。多少の欠点はあるが、条件や環境を整えば、ここまでは出来るという見本であろう。教科書や指導書が整備され、ある程度の研修が保証されれば、公立小学校での英語の教科化も可能と思われる。小学校教諭を志望する学生も英語を教えることに前向きであるという調査結果もあり（杉浦 2000）、若い先生にはそれほど強い抵抗はないと思われる。

本研究は、八田玄二氏（椋山女学園大学教授）と野呂忠司氏（愛知教育大学教授）との2004年度科学研究費による共同研究の成果の一部である。この分析に際し、韓国の教育事情の情報提供と翻訳をしてくれた佐方貴文氏（愛知教育大学大学院生）にこの場をお借りして感謝したい。

## 引用文献

- 河合忠仁（2004）『韓国の英語教育政策：日本の英語教育政策の問題点を探る』 関西大学出版。
- 杉浦正好（2000）「小学校で英語を教えるために」『外国語研究』第35号 愛知教育大学外国語教室。
- 松川禮子（2004）「共生能力養うために」『毎日新聞』2004/8/30。
- 文部科学省（2005）Retrieved October 24, 2005, from the World Wide Web: [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/015/05071201/005/003.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/015/05071201/005/003.htm).
- 読売新聞（2005）3月12日：2。
- 渡辺敦司（2005）「英語テストで韓国の成績、大幅アップー小学校からの導入が効果ー」『内外教育』5月6日：2-3。
- Kirby, S. and Christiansen, M.H. (2003) “From language to language evolution” In Christiansen & Kirby (Eds) *Language Evolution*. Oxford: Oxford University Press, 272-294.